

# あがたい 縣居翁・賀茂真淵は郷土の誇り、日本の宝

## 国学とは

会長 山下智之

国学は、日本の古典を研究し、人間のありのままの感情を自然な表現で評価し、独自の文化・思想、精神世界（古道）を明らかにしようとする学問です。

江戸時代中期に歌学者契沖が創始し、荷田春満に受け継がれ賀茂真淵・本居宣長により思想が体系化され、やがて平田篤胤などの古代日本人の精神性である「古道」を説明する流れと、塙保己一・伴信友など古典の「文献考証」を行う流れとして発展していきました。

宝暦五年（一七五九）真淵 五九歳

真淵は古代憧憬の思いが深く、いであ（居間と客間を併せた部屋）を古風に作り人を集めて祝った。

飛驒たくみ

ほめてつくれる 真木柱

立てし心は 動かざらまし

これは、けふつどへるはわが古の書の学びの道つたふる人々なれば、かくいへり」と書く。

建物の事だけでなく、真淵の古学に対して立てた志の象徴とされる歌。こうして**国学**は江戸に広まった。

平成 28 年 10 月 23 日  
縣居神社に新しい鳥居が  
奉納されました。



鳥居建設委員会が広く呼びかけ、市内外の皆様のご尽力とご協力をいただきました。多くの皆様に感謝申し上げます。今後は、遺徳顕彰会によって運営維持してまいります。



縣居神社の紅葉  
平成 25 年 11 月 29 日

浜松市は平成 17 年に大きく飛躍しました。それまでの  
浜松市歌は賀茂真淵を詠い、市の花は『萩』でした。

五社公園にある  
旧浜松市歌碑二基 及び説明版



旧浜松市歌碑 平成 3 年建



歌碑 平成 8 年建

旧浜松市 市歌

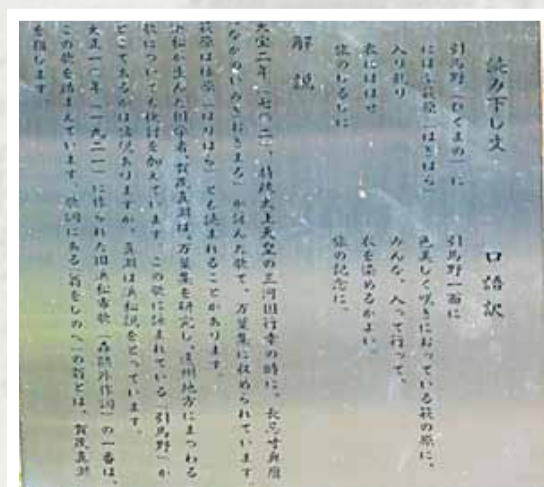
作詞 森林太郎  
作曲 本居長世

大宮人の旅衣  
入りみだれけむ萩原の  
昔つばらにたづねつる  
翁をしのべ書よまば  
引馬のうまやさまかへて  
よろづの業ぞ進むなる  
いざもろともに謀りてむ  
わが浜松の市のさかえ

旧浜松市歌は、森林太郎（森鷗外）が作り、本居長世（本居宣長の子孫）が作曲しました。文豪森鷗外は、“文”の代表として真淵を、次に“武”の代表として家康を、浜松ゆかりの偉人としてとらえています。



賀茂真淵像 縣居神社拝殿  
中津川正昭（中区住吉三丁目）（故人）  
が真淵翁を敬慕し、萩を描いた日本画。



「万葉集遠江歌考」  
真淵 46 歳。引馬野尔…等 遠江  
にゆかりの 18 首を考証注釈した書。